

3. 推計方法の一般原則

1. 国内消費仕向量は、国内生産量+輸(移)入量-輸(移)出量によって算出してあるが、米、大麦、裸麦及び小麦については、石単位を1,000トン単位に換算してあるが、とくに年代による容重量の変化を考慮して次のような換算率を用いた。

1 石当たり重量換算表

品目	明治44年～大正4年平均	大正10年～14年平均	昭和6年～10年平均	
内地産	玄米	38.0貫 (142.5kg)	39.0貫 (146.3kg)	40.0貫 (150.0kg)
	大麦	27.0 (101.3)	28.0 (105.0)	29.0 (108.8)
	裸麦	36.5 (136.9)	37.0 (138.8)	37.0 (138.8)
	小麦	35.0 (131.3)	35.0 (131.3)	36.5 (136.9)
朝鮮産	玄米	37.5 (140.6)	38.5 (144.4)	40.0 (150.0)
	小麦	34.0 (127.5)	34.5 (129.4)	36.0 (135.0)

2. 粗食料は、国内消費仕向量から食料用以外仕向量(飼料用、種子・加工用等)を控除して算出した。なお、原資料においては飼料用、種子・加工用等の区分がなされていないため、当調査課において利用割合(%)を用いて飼料用数量をまず算出し、その残差を種子・加工用等とした。
3. 純食料は、粗食料より減耗料を推計控除したものであるが、まず、粗食料に歩留りを乗じて可食部重量を求め、さらにこの可食部重量に減耗率(貯蔵中及び厨房におけるウェイストの割合)を乗じて減耗量を推計し、これを控除して算出してある。したがって、本表における減耗量は可食部重量で表示されたものとなっている。なお、可食部割合(歩留り)は、「4. 採用品目別の歩留り及び栄養成分表」に掲げたとおりである。

貯蔵中及び厨房におけるウェイスト割合(%)は正確な資料がないため資源局資料あるいはアメリカ合衆国の資料を参考にして穀類及び豆類は5%、その他の品目については10%とした。

4. 1人当たり供給の算出に用いた人口は次のとおりである。

明治44年～大正4年平均	51,335,492人
大正10年～14年平均	57,635,051人
昭和6年～10年平均	66,584,234人

5ヵ年間の平均値を算出するにあたっては、年首人口を採用した。なお、原資料においては、熱量、蛋白質、脂質の数値は「1消費量単位当たり数量」として表示されているが、当調査課において「1人当たり数量」に換算した。この換算比率は、明治44年～大正4年平均、大正10年～14年平均については80.67%とし、昭和6年～10年平均については80.42%とした。